

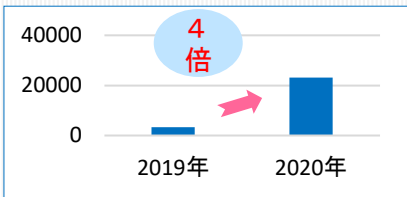


特集

新型コロナウイルス感染症拡大で地域でおこっていること 11

コロナ禍での子ども食堂

フードバンクかながわからの提供量4-7月の比較

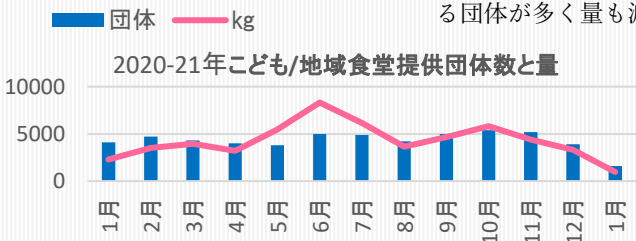


食品提供量と団体の活動

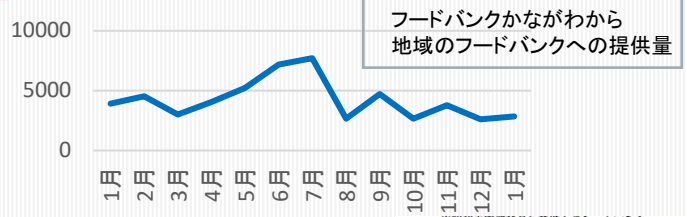
1月 11.2t

フードバンクかながわに登録する子ども/地域食堂は86団体。実利用は約55団体。食堂や弁当提供で頑張っている食堂もあるが、公共施設の閉鎖等で食堂からフードパントリー(食品提供)に移行。4-7月は前年の4倍量になった。

21年1月は活動を自粛する団体が多く量も減少。



コロナ禍での地域のフードバンク



フードバンク 報徳食品支援センター

(小田原市) 本岡俊郎 副理事長



配付会で挨拶する田嶋理事長「報徳@なう11月号」掲載

西湘地区は30万人のうち2万人が観光関連のパートタイマー。母子世帯が多く一気に母子世帯の支援が拡大。

お米のニーズが大きい。赤い羽根共同募金会助成を活用し冷凍冷蔵庫設備を設置できた。ひとり親世帯は冷凍食品を必要としている。ミートボールなどこどもの弁当を作る為だ。助成金で足りない食品を買っている状態だが、企業が冷凍食品を安く提供してくれたらうれしい。

企業は食品事故を心配するが、世界的には出荷時に問題なければその後の責任は負わないという「よきサマリア人法」が食支援の憲法となっている。国も企業はこのことをよく知ってほしい。

また、今もう一つの問題は外国人労働者支援だ。外国人支援というメーカーは身構えるが、今一番苦労しているのは外国人労働者であることを忘れてほしくない。(談)

フードバンク ワンエイド

(座間市) 松本篤 理事長 石塚恵 理事



ワンエイドの隣に不動産会社プライムがある

コロナ禍では生活保護申請中、ホームレス、DV被害者、年金前、子ども食堂、住まい相談など月に200件以上の相談があった。今まで支援を必要としなかった人から支援を求められた。行政の窓口が閉まったことで行き場を失った人やネットカフェで生活していた人の相談も多かった。

食支援と同時に住まい支援も必要になるため、居住支援も併せて実施している。

市内の学校給食用米の提供、地域の団体・個人の寄付、食品の倉庫提供など、地域の団体や人と連携することでたすけあいの市民活動が成り立つと実感する。(談)

相模原市 学生支援

181日間継続 6,055人に支援
フードバンクかながわより累計
11.2トン 提供

「食材支援」活動

5/31~6/30の日曜除く毎日。
27日間。3,021人

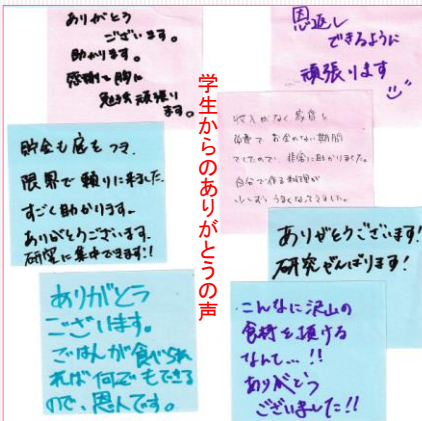
「未来応援DAY」活動

7月以降月2回3か所
計14日14人

「今日の食材」活動

野菜など生鮮食品入荷に合わせて随時開催。140日1,633人
【特徴】

- ★食材支援の9割は複数回参加。
- ★地元産の新鮮な野菜の人気が高い。インスタント食品、米も人気。
- ★来所学生の7割以上がひとり暮らし。学校の立ち入り制限、アルバイト収入減、仕送り減等により、殆どの学生が支援の継続を希望。



会員団体の協力

コロナ禍で食品提供が増加。主食の米は食支援の基本となる。パルシステム神奈川は計6トンの米を寄付(上)。

労働団体でも米一合運動を展開している。小袋に入れた米が集まる(下)。

パルシステム神奈川は 米6トン
労働団体は米一合で2.8トン



JAグループ神奈川は
大根・キャバツ各1000本を提供



三浦農協から運ばれてきた大根は早速子ども食堂よすかながわがやさんへ



お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ info@fb-kanagawa.com

236 - 0051

横浜市金沢区富岡東2-4-45

TEL 045-349-5803

発行責任：藤田 誠

基本情報 2020年度の累計 (2021/1/29現在)

寄贈された食品 970回 163.9トン 提供した食品 1,887回 156.8トン

企業等 136.8t
フードドライブ 27.1t

行政・社協 39.6t 512回
フードバンク 43.2t 299回
子ども食堂等 48.8t 730回
施設等 3.0t 67回
福祉/病院 21.7t 279回
調整 0.5t

12月は寄贈 16.4トン
提供 15.6トン

合意書締結団体

寄贈締結団体 139団体
提供締結団体 200団体
行政・社協 51団体
市民団体 149団体
(子ども食堂・居場所・施設・福祉関係含む)

賛助会員寄付状況

団体会員 166団体 596口
596万円
個人会員 243人 1182口
1,182千円
2020年寄付金 11,326,818円
寄付累計 22,700,261円

(2019年度実績 寄贈 97トン・提供 92トン)

1月の状況 1/4~1/29 寄贈14.5トン 提供11.2トン

【寄贈食品】 14.5トン

事業者 9.7トン
フードドライブ 4.8トン

【提供食品】 11.2トン

行政・社協 3.3トン 30団体 52回
フードバンク 2.9トン 16団体 28回
子ども食堂等 3.7トン 42団体 55回
施設関係 0.3トン 5団体 8回
福祉/病院 1.0トン 16団体 25回

以下敬称略で報告します。。

寄贈

1月 14.5t

日本食研鍋つゆ2.7トン、横浜市工業連合会賀詞交換会用菓子、日生協切り干し大根、ドレッシング、ローションなど、食品ロスリボンセンター缶詰類、クラダシからビスケット、東京海上缶詰等、平和食品工業カレー、アツギ工業、伊藤ハム、富士フィルム生協よりアルファ米の寄付。



食品ロスリボンセンターのさんま缶ときんぴらごぼうの缶詰め567kg (左)、株式会社クラダシの災害用ビスケット681kg (右) の提供。

フードドライブ

1月 4.8t

個人のフードドライブ48件436kg。イトーヨーカドー1.24トン、ユーコープ1.18トン、パルスシステム365kg、JAさがみ73kg、JA中央会23kg、セカンドリーグ239kgなど。



写真
上：ヨーカドー各店舗
中左：横浜銀行杉田金沢エリア8店舗・矢野支店長
中右：JA神奈川中央会
下：通販・ふるさと納税活用の個人寄付。

米一合運動

計 2.8t

労働団体の米一合運動は
1月767kg、延べ2.8トン。

写真：横浜労協福協戸塚支部・日立労組ソフト支部・横浜戸塚地区連合の皆さん



理事メッセージ

田中 知己 理事

(生活協同組合ユーコープ 参加と連携推進本部長)

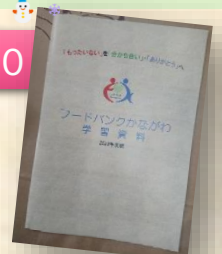


新型コロナウイルス感染症の感染拡大が深刻化し、1月には緊急事態宣言が再発出され、経済活動に甚大な影響が出ています。その結果、生活に困窮し、食の支援を必要とする世帯が増えていて、「フードバンク」が果たす役割や期待が益々高まっています。

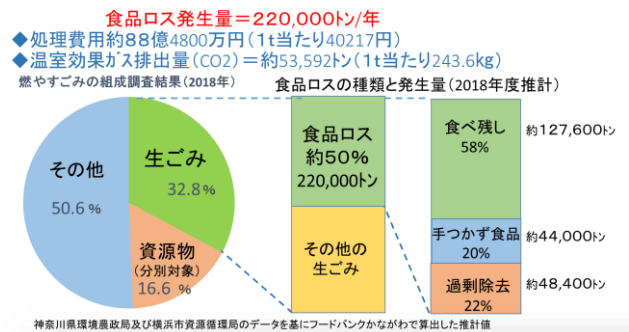
ユーコープでは、1月4日(月)から1月31日(日)まで毎年取り組んでいる「フードドライブ」に取組みました。またフードバンクが果たす社会的役割が増す中、その活動を支援する為、フードバンクかながわへ500万円の寄付を決定いたしました。是非この寄付金を活用してひとりでも多くの支援が必要な方々へ食の支援が行われることを期待しています。後日どのような支援に活用されたのか、また支援を受けとられた方々の感謝の声などをご提供いただければ幸いです。それらの情報は、組織内外へひろく広報することで、フードドライブ活動に対する更なる共感の輪を広げたいと考えています。宜しくお願いいたします。

フードバンクかながわ学習資料2020

新しい学習資料2020年版ができました。神奈川県調査による食品ロスデータ、コロナ禍でのフードバンク活動も写真掲載しています。学習会の開催は難しい時期ですが、少人数、リモートなどでの学習会資料に使えます。無料配布中。HPからダウンロード可能。



神奈川県内の家庭から出される食品ロス(2018年)



神奈川県内の家庭系食品ロスの焼却費用・CO2排出量

◆処理費用約88億4800万円(1t当たり40217円)
 ◆温室効果ガス排出量(CO2)=約53,592トン(1t当たり243.6kg)

